SSKRゼンコロNo.163（増刊）通巻8306号2018年1月28日発行

SSKR

ZENCOLO

ゼンコロ

2018.1　No.163

■羅針盤
■北から南から
■第２回　印刷事業振興現地交流研修会　東京コロニー・大田福祉工場で開催
■第３回　交流型技能競技会（ゼンコロ版アビリンピック）福岡コロニーで開催
■第３回　発達障害者支援研修会　東京で開催
■シリーズ「社会福祉法人は今、社会から何を求められているか」
■人物紹介
■「日本のコロニー」ハミリフィルム再生によせて
■利用者の声
■私の旅行記
■お薦めの本
■佐賀春光園　末安善徳理事長、逝去
■自慢の作品

一般社団法人 ゼンコロ
〒165-0023 東京都
中野区江原町 2-6-7
電話 03-3952-6166
発行 中村敏彦

津軽富士見湖「鶴の舞橋」：保刈智之（青森県コロニー協会）

羅針盤

大事な忘れもの？

会長　中村　敏彦

はじめに

人権は、ゼンコロがもっとも尊重する普遍的な価値であり、テーマであります。

世界は、第二次世界大戦の経験から貴重な学びを得ました。１９４５年、人権の普遍的尊重を明らかにした「国連憲章」を誓約し、同年10月に国際連合が成立し、国連は１９４８年12月10日に「世界人権宣言」を採択しました。そして、１９６６年、第21回国連総会で「国際人権規約」を採択し、人権の国際基準を示しました。

もう一つの規約

「国際人権規約」は人権に関する多国間条約である経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約（社会権規約、Ａ規約）、市民的および政治的権利に関する国際規約（自由権規約、Ｂ規約）およびその選択議定書の総称であります。

わが国は、社会権規約、自由権規約ともに批准していますが、選択議定書については、いずれも批准していません。社会権規約については司法権の独立が懸念されること、自由権規約は死刑廃止を定めていることを主な理由に挙げています。

障害者権利条約を批准するにあたっては、２０１１年「障害者基本法」の改正に始まり、２０１２年の「障害者総合支援法」の制定、２０１３年の「障害者雇用促進法」の改正および「障害者差別解消法」の制定など、不十分とはいえ国内法の整備を行ってきました。

しかしながら、わが国は、障害者権利条約の選択議定書についても、まだ批准していないのです。

あらゆる人権条約の保障を担保するために、締約国報告と個人通報の二つのシステムが存在し、人権条約に定められた権利を具体的に実現するものですが、選択議定書は、両輪のひとつとして規定された諸権利の侵害について、個人もしくは集団の通報を可能にすることを定めた個人通報システムです。残念ながら、わが国は何ひとつ批准していません。以下議定書の概略を紹介します。

仮訳を分かり易く書き換えていることを予めご了解ください。

選択議定書（障害者権利条約）

第１条では、障害者権利委員会が、締約国による条約規定を違反した被害者であると主張する個人もしくは集団により、あるいはそのために提出される通報を受理し、検討する権限を有することを認め、委員会は、この議定書の締約国でない通報を受理してはならないと、**委員会の権限**を定め、

第２条では、通報の内、（ａ）匿名である場合、（ｂ）通報提出の権利の濫用、または条約の規定と両立しない場合、（ｃ）同一の事案が、すでに審査された場合、または他の手続により審査されたかもしくは審査されている場合、（ｄ）利用可能なすべての国内的な救済措置を尽くしていない場合、（ｅ）明らかに根拠を欠いている、または十分に立証されていない場合、（ｆ）通報対象事実が、関係締約国において、この議定書の効力を生ずる前に発生した場合など、**受理できない場合**を定め、

第３条では、前条の規定に従うことを条件として、いずれの通報についても、関係締約国の注意を内密に喚起し、注意喚起された国は、６箇月以内に、その事案および当該国がとった救済措置がある場合には、その内容をつまびらかにした書面による説明、または声明を委員会に提出するという**関係国への照会**を定め、

第４条では、委員会が通報を受理して決定に至るまで、いつでも締約国に対して緊急の考慮を促すため、通報した被害者に生じ得る回復不能な損害を回避するために必要な、暫定的な措置を講ずることを求める要請を送付することができ、規定に基づく裁量を行使する場合であっても、当該通報の受理可能性または本案についての決定を意味するものではないと、**暫定措置**を定め、

第５条では、議定書に基づき通報を審査する場合には、非公開の会合を開催し、通報を審査した後、その提案を、勧告がある場合には勧告とともに、関係締約国および請願者に送付する**通報の審査**を定め、

第６条では、権利の重大性かつ信頼できる情報を受領した場合には、当該締約国に対し、当該情報に関する審査に協力し、要請に応ずること、他の信頼できる入手可能な情報とともに考慮に入れた上で、委員を指名して調査を行わせ、委員会に緊急に報告させることができること、調査には、同意がある場合には、締約国への訪問を含め、調査結果を審査した後、調査結果をその意見および勧告とともに締約国に送付すること、締約国は、委員会により送

付された調査結果、意見、勧告を受領した後6箇月以内に、その見解を委員会に送付すること、調査は内密に行われるものとし、締約国の協力はこの手続のすべての段階で求められることなど、**委員会の調査**を定め、

第7条では、前条に基づいて行われる調査に応えて、締約国が講じたいずれの措置の詳細を、条約第35条に基づく報告に記載するよう要請することができること、必要なときは、第6条に定める6箇月の期間の終了後、締約国に対し、調査に応えて当該締約国が講じた措置を委員会に通告するよう要請することができるなど、**調査に応えて講じた措置**を定め、

第8条では、各締約国は、この議定書の署名もしくは批准、または加入の際に、委員会が第6条および第7条に規定する権限を有することを認めない旨を宣言することができる**適用除外宣言**を定め、

第9条では、議定書は、国際連合事務総長を**寄託先**とすることを定め、

第10条では、２００７年3月30日に、ニューヨークにある国際連合本部において、すべての国および地域的な統合のための機関による**署名**のために開放しておくことを定め、

第11条では、議定書は、条約を批准しまたは加入し、かつ、この議定書に署名した国により批准されなければならないことや、条約を正式に確認しまたは加入し、かつ、この議定書に署名した地域的な統合のための機関により正式確認が行われなければならないことや、この議定書に署名していない国または地域的な統合のための機関による加入のために開放しておくという**拘束することへの同意**を定め、

第12条では、地域的な統合のための機関を、特定の地域の主権国家によって構成される機関で、条約およびこの議定書が規律する事項に関し、加盟国から権限の委譲を受けたものと定め、権限の範囲内の事項について、締約国である加盟国の数と同数の票を投ずる権利を締約国の会合で行使することができること、当該機関は、その加盟国のいずれかが自国の投票権を行使する場合には、投票権を行使してはならないこと、その逆の場合も同様とすることを定め、

第13条では、条約の効力発生を条件として、この議定書は、10番目の批准書または加入書が寄託された後30日目の日に効力を生ずること、地域的な統合のための機関については、この議定書は、当該国または当該機関によりこれらの文書が寄託された後30日目の日に**効力が発生**することを定め、

第14条では、議定書の趣旨および目的と両立しない**留保**は認められないこと、留保は、いつでも撤回することができることを定め、

第15条では、いずれの締約国も、この議定書の改正を提案し、改正案を国際連合事務総長に提出することができること、同事務総長は、締約国に対し、その改正案を送付するものとし、改正案の審議および決定のための締約国の会合の開催についての賛否を示すよう要請すること、その送付の日から一定期間内、一定数以上が賛成する場合には、会合を招集すること、採択された改正案は、承認のため国際連合総会に提出するものとし、その後はすべての締約国に送付すること、採択されかつ承認された改正は、一定期間内に効力を生ずることなど**改正について**定め、

第16条では、締約国は、国際連合事務総長に対して書面による通告を行うことにより、この議定書を廃棄することができること、**廃棄**は、同事務総長がその通告を受領した日の後1年で効力を生ずる事を定め、

第17条では、この議定書の本文は、**アクセシブルな様式**で利用できるものにしなければならないと定め、

第18条では、この議定書は、アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語およびスペイン語をひとしく**正文**とすること、

を定めています。

（参考文献　川島聡＝長瀬修　仮訳　２００８年5月30日付）

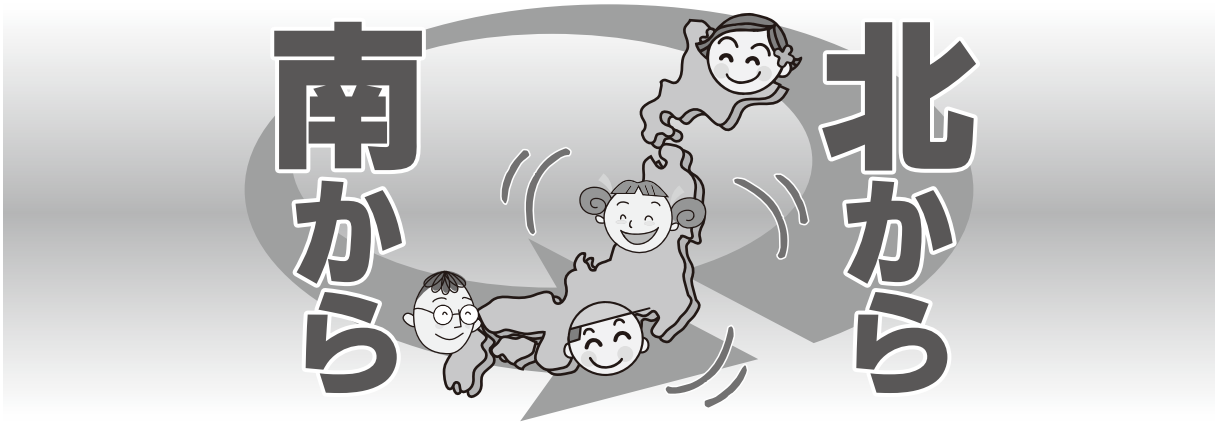
わが国は

私たちの周りでは、障害者虐待防止法や苦情解決の仕組みなどにおいて、個人通報の仕組みが積極的に採用されています。

一方で、米国、英国、ドイツ、フランス、イタリア、カナダ、ロシア、日本による主要国会議（G8サミット）の参加国においては、唯一日本だけが何らの個人通報システムを持たず、自由権規約委員会からは1993年、1998年、２００８年と3回にわたり選択議定書の批准を勧告され、女性差別撤廃委員会、人権理事会など様々な場で個人通報システムの受入を求められています。

障害者権利条約を批准した際、国内の関連法や施策がようやく整ったと示されました。この個人通報システムが日本でも実現されると、国内で敗訴した個人が、条約違反を理由に国を相手に人権条約機関に申立を行い、権利救済を求めることが可能となります。

わが国の障害者の人権保障の状況が、国際人権条約に照らしても十分な状況であるなら、自信をもって批准することをお勧めします。



青　森

コインランドリー2号店オープン

青森コロニーセンター
部長　布施 卓実

青森コロニー印刷のメインの得意先のひとつである生協の新店舗移転オープンに伴い、同敷地内のクリーニング取次店にコインランドリーを併設させた近代型店舗を十一月十六日にオープンさせました。

このコインランドリーには県内初となる「料金集中精算システム」を導入しました。

これは従来のコインランドリーではかなわなかった「洗濯・乾燥の終了をお客様の携帯電話に自動コール」

「電子マネーが使える」「領収書の自動発行」「千円札でお釣りが出る」などが可能となり、稼働状況や売上推移、店内の風景もリアルタイムにパソコンで確認できるといったシステムです。

しかしながらこの最新システムは青森にはまだ早いのか、機械の前で戸惑うお客様が続出し、しばらくの期間は説明に追われそうです。

山　形

花壇づくりから得るもの

山形コロニー就労サポートセンター
大沼 久美

当協会の入り口付近が空き地になっており、所有者の山形市から借り受けて花壇を作ることにしました。許可をいただいたのが7月中旬で、就労移行支援の利用者7～8名が作業に志願してくれ、暑さがとても厳しい中で花壇づくりが始まりました。ほとんどの人は花苗の植栽経験が無く、苗の配置、土の掘かたや苗の間隔など、園芸に詳しい職員から助言を聞き、仲間と意見を出し合いながら２４０株の植え付け作業が進みました。普段の活動では額に汗して作業をすることは殆どないので、リタイアする人も出るだろうと予想をしていたのですが、誰一人抜けることなく、最後までやり通しました。作業中の様子を振り返ると、何も無かった土地に少しずつ色鮮やかな花が置かれ、自分たちの作業成果が実感できることで、やりがいや見通しが持て、作業に継続して向かうことができたのだと思います。その後、毎朝の水遣りや雑草取りを交代で行い、花の成長を見守りました。たく

さん花を咲かせている様子や枯れてしまった様子など、利用者からの報告が挙げられるようになりました。興味や責任感の持続の他、「やってよかった」と自分が行った作業の〝役立ち〟や〝価値〟を感じることができ、「労働の良さは単に対価を得ることだけではない」と新しい意識が芽生えたことは、この花壇づくりをとおしての大きな収穫でした。

利用者に就職したい理由を問いかけると「生活のため」や「親も働いているから」と外発的な動機を挙げる人が少なくありません。そのまま就職され、職場環境へのマンネリ感や変化にモチベーションを維持することが難しくなってしまい、離職に至るケースが散見されます。そのような状況を繰り返さないよう、具体的な経験への振り返りをとおした、体験の社会的文脈による意味づけの再構成を支援し、「人の役に立つ」「人に喜ばれる」といった労働に対しての内発的な動機の醸成につながる働きかけが大切であり、就労移行支援に期待される役割だと考えます。

最近では、砂利だらけの土地を更に花や野菜でいっぱいにしたいと、これまでの花壇を更に拡大すべく、吹く風の寒さも気にせず、硬い地面をシャベルや鍬で耕し、肥料となるように土や枯葉を運び、春の種まきの時期を皆で待っているところです。

首にタオル。笑顔も。

殺風景な空き地でした。

苗の扱いに気を付けながら線にそって丁寧に植えていきます。

長野

モノクロオンデマンド印刷機の導入について

ながのコロニー長野福祉工場
印刷部印刷課　山口和裕

公益法人ＪＫＡ様の平成29年度障害者福祉事業所の機器整備補助事業を受け、モノクロオンデマンド印刷機を導入しました。今回は4社による入札の結果、設楽印刷機材の Clever Press Neo 1052を1台購入することに決定しました。

前年度にRICOHのカラーオンデマンド印刷機を2台導入しました。当初は品質の問題が多くありましたが、印刷機に比べ操作が比較的覚えやすく、メンテナンスもオペレーターが行なう部分が少ないために、早期に運用することができました。今回導入したモノクロオンデマンド機はカラー機よりもさらにコストが低く、印刷スピードも速いのが特徴なので、繁忙期を前に期待をしています。

印刷機は勘に頼るところが多く、調整やメンテナンスに時間がかかり、負担が比較的大きいため、福祉工場では印刷作業をしている利用者さんが1名しかいませんでした。それを今回廃止して、モノクロオンデマンド印刷機に変更しました。大量に印刷することはできませんが、比較的短時間で作業を覚えることができ、勘に頼らない安定した品質の印刷が可能になりました。また、丁合がとれるために製本作業の時間が省け、少部数のものであればコストも下がり、短納期にも対応できます。通常の印刷機に比べ安全性も高く、操作性も良いことから、作業の肉体的・精神的な負担の軽減が期待されます。そのため、作業する利用者さんの障害特性に幅広く対応できると思います。また、オンデマンド印刷オペレーターとして利用者さんの作業幅を

拡げ、新たな人材募集も行うことができ、障害者雇用に役立つと考えています。繁忙期は3台のオンデマンド印刷機を使い、利用者さんが中心になり分担して作業をしていく予定です。

これからは、営業とも連携して、オンデマンド印刷の新規の案件も多く受注できるように生産効率を上げていきたいと思います。

最後に、公益法人ＪＫＡ様には大変感謝しております。

東京

新設事業所の建設が進んでいます

中野区中野福祉作業所　所長
今西　康一

現在、東京コロニーが中野区より指定管理制度により運営を受託している「中野区中野福祉作業所」が今年度をもって閉所となることとなっており、一昨年に行われた代替となる中野区の障害福祉計画に則った新施設建設のプロポーザルに応募して東京コロニーが選定されました。

選定された施設の建設は、2017年1月に着工して計画どおり順調に進み、工事としては細部の手直しと外構部分を残すのみとなりました。新施設では、来年度4月1日よりの事業開始に向けて事業の準備を進めています。事業は、就労移行支援10名、就労継続Ｂ型60名、生活介護30名（重症心身障害者通所5名含む）、短期入所4名、緊急一時保護1名、計画相談事業を行う多機能型施設です。

生活介護事業は東京コロニーとして初めて取組むことになります。そこで、他法人の生活介護施設に従業員を派遣して実習を繰り返し行っています。新たな従業員の採用も進めており、設備の導入準備や送迎方法等これまでの事業に追加するものや変更する必要のあるものの検討等鋭意準備を進めています。また、現在、中野福祉作業所を利用されている利用者のみなさんには、円滑な施設移行ができるように一人一人の希望の聞取りを行っています。また、新たに新年度より利用を希望される方々もおられ、事前の説明会や相談も随時開始しています。

施設名は、法人内に公募した際に応募いただいたいくつかの案を参考にして、「コロニーもみじやま支援センター」と正式に決定しました。開所時期が、もう間近にせまってきておりますが、新たな気持ちをもって新施設での新事業開始にむけて従業員一同で協力して準備を進めていきたいと考えております。

あかつき

初代スマートボール完成

あかつきコロニー　事務局長
遠藤　至子

あかつきコロニーでは毎年8月の終盤に地域の子供たちに建物の一部を開放して、催し物を行っています。作業終了後の夕方の明るい時間帯に屋外で簡単な飲食を提供して、ゲームを楽しんで貰い、日が暮れてきた頃から屋内で映画鑑賞を行うのが毎年の流れとなっています。具体的な内容は委員会で決めていくのですが、実施するゲームについて、例年とは若干趣向を変え、今回は職員で制作しようという話になりました。

少し前の話になってしまいますが、今回はそんな彼等委員のゲーム作りの奮闘ぶりについてレポートさせて頂きます。

さて、委員会で検討した結果、ゲームはスマートボールになりました。

皆さんはスマートボールをご存知ですか？パチンコのようなものといえばイメージがつくでしょうか。まずはネットでスマートボールの作り方を検索。「なんだ、簡単そうじゃない」「材料費も大してかからないね」「楽勝、楽勝！」と委員の皆さん、余裕綽々で制作に臨みます。まずは材料の購入から始まり、時間の合間を見て作業を開始。…しかし…

やっと出来上がって試し打ちをしてみたところ、ビー玉が回転バーに当たってくるくる回るところが一番のポイントなのに、目論見通りにそこにビー玉が飛びません。発射台のゴムの強さが悪いのか？台の傾斜角度の問題なのか？釘の位置がまずいのか…？頭を抱える委員達。発射台から放たれたビー玉の描く放物線や釘に当たった後のビー玉の動きを見て、何度も微調整を行っているその姿は傍から見ると、さながら家具職人かプロの釘師か…。いつの間にやら、それほどまでに真剣に、―本来業務そっちのけで―スマートボール作りに没頭していたのでした。

―そうそう、大勢の子供たちが遊ぶことを想定して耐久性にも考慮しなければ。

―ん、ビー玉は一番のポイントの回転バーに当たったのに、肝心のくるくるが綺麗に回らない、何故だ!?

スマートボード作りは意外と奥が深いようです。繰り返し、繰り返しビー玉を打ち放ち、ああしたら？こうしたら？と皆で知恵を絞りあい、最終的には何とか委員の皆さん納得のいくものに完成させることが出来たようでした。良かった、良かった。

さて、当日来て頂いた子供たちの反応ですが、とても楽しんでくれていました。皆さん作った甲斐がありました。食べ物もおいしいと好評で喜んで頂けました。それにしても、初代ということは、２代目以降もあるのかも!?

福　岡

「地域の夏祭り」がなのみの敷地内で実施されました！

福岡コロニー　なのみの里課長　山﨑 さとみ

なのみ工芸・里では以前から、地域交流の一環として、作業室を公民館代わりにご近所の総会や交流会で使って頂いています。また、三年前から始まった、小学校区の防災避難訓練に施設入所のなかまと職員皆で参加するようになってからは、ご近所の皆様とお話しする機会が一層増えました。

そして今年、毎年開催されている「千鳥東区夏祭り」の会場に、なのみの芝地を貸してもらえないかとお話しを頂き大喜び！職員が実行委員会に参加、地域の方々が来所して施設内で数日一緒に盆踊りを練習、なかまたちで前日までに芝地や樹木の手入れ及びテント建てなどを行い、様々な準備を整えました。七月二九日(土)朝八時に約五〇名の地域の皆様が準備に集まり芝地がいよいよ祭りらしく変身。夕方からはどんどん参加者が増えてきて、二〇〇人を超える方々が集まりました。

地域の六つの組や育成会・福祉会による美味しそうな屋台が並び、福岡コロニー及びなのみ工芸・里からは、自慢の美味しいうどん、なかまたちによるヨーヨーつり、さをり織りや食品加工の製品販売で参加。さをり織り体験コーナーも好評でした。

最後になのみからスモールプレゼントの打上げ花火。ご近所さんもなかまたちも皆で一緒に空を見上げて「うわ～きれい！」。

美味しく楽しく幸せな一日でした。

熊　本

平成30年3月竣工を目指して

熊本県コロニー協会　グループホームきずな　管理者　櫛山 哲夫

平成28年４月14日夜半及び16日未明に発生した熊本地震により、熊本にある多くの福祉施設同様、熊本県コロニー協会もA型事業所がある福祉工場棟およびB型、就労移行支援、放課後等デイサービスの各事業所がある訓練棟、そしてグループホーム棟が各々大きな被害を受けました。特に、グループホーム棟は、建物東側半分が25ｃｍも地盤沈下し、「大規模半壊のり災判定」という想定外のダメージを受けました。そのため、この部分にある居室10室が使用できなくなり、一部の利用者さんには、残された居室を使い応急的に相部屋で生活する不便を強いることとなりました。しかし、この10月になり退居・転居者があり相部屋がようやく解消できました。

解体された浴室（右側）と
躯体部分のひび割れを調べるための掘削

工事用足場が組まれたグループホーム

被災直後、工事に着手したくとも施工業者の不足等で復旧工事をいち早く開始する事が困難でした。しかし、平成29年７月、ようやく九州財務局及び九州厚生局の災害復旧工事に関する査定が終了し、８月には５業者による工事入札を経て10月から着工に至っています。熊本地震による復旧工事は原状復旧が基本であり、工事期間の短縮という観点から建替えではなくジャッキアップによる復旧工事を選択しました。

幸い地下11・５メートルの位置に強い地盤の存在が確認できたことで、建屋下の既存の杭柱７か所に75ｃｍ長の鋼管杭を計約９００本圧入しました。かなり大がかりな工事であり、この作業に２ヶ月余を要したが、先日、３日間をかけゆっくりと建物が持ち上げられ、１年８ヵ月ぶりに建物は元のように水平となりました。作業中、ミシッ、ミシッと建物が音を発する様は、まるで建物が背伸びをしているようで「今建物が持ち上がっている」と実感しました。現在、ひび割れした壁や外装の補修、各部屋の窓、トイレ、浴室の修復、等の作業が継続されています。

相部屋は解消しましたが、利用者さんは冬の寒い時期に風呂にゆっくり浸かれず、仮設のユニットシャワーを利用していますが、工事関係者の本工事に対する熱意と協力も相まって、平成30年３月31日までにはすべての工事が終了する予定になっています。その間、グループホームを利用する皆さんには引き続き不便や我慢を強いてしまうことになります。復旧の目途が立ってきたこともあり、竣工直後には定員20名（現在14名利用中）すべてが利用できるようにその受け入れ準備を併行して進めています。

最後に、復旧工事に至るまでには、ゼンコロメンバーの皆さまを始め各方面から多大な援助を頂き心より感謝しています。合わせて、皆様のご支援に応えるべく、復旧工事の竣工によって熊本県コロニー協会の更なる発展に結び付けていきたいと考えています。

佐　賀

からだも心も温まった♡クリスマス会

佐賀春光園　コロニーみやき　施設長　向井 ひとみ

平成29年12月21日（水）にコロニーみやきでクリスマス会を行ないました。前年度までは、佐賀春光園と合同で会場を借りてのにぎやかなクリスマス会でしたが、今年はコロニーみやき利用者27名、職員９名参加のなごやかなものとなりました。玉入れゲーム、黒ひげ危機一髪ゲーム、プレゼント釣りゲームの後、おいしいお寿司とチキンの昼食をいただきました。

玉入れゲームは、１回目は部屋中にちらばるカラーボールをかごの中に入れるゲームでした。２回目は、色分けをした色のカラーボールを選んで入れるゲームになりました。み

なさん一生懸命頑張っていたので、わたしも必死でボールをかがんで拾っては投げ拾っては投げ、ハアハア言いながらしました。久しぶりの体験で楽しいひとときを過ごすことができました。そして終わった後、みなさんのプレゼントを持つ笑顔と、「楽しかった～」「おいしかった～」の声がきけたことが、一番うれしいことでした。

沖　縄

地域に根ざした支援をめざして

沖縄コロニー
コロニー児童デイサービスちばな
管理者　津山 大輔

沖縄コロニー児童デイサービスでは、遊びや運動を通して、社会性や生活面の成長へと繋げていく支援を行っています。

このたび、当法人では、初の試みとなる生活介護・施設入所支援事業を行っている、障害者支援施設コロニーワークショップ沖縄の一角に、28事業所目となる「コロニー児童デイサービスちばな」が4月1日に開所しました。また、同日に未就学児対象の児童デイサービスのぼりかわ発達支援もワークショップに移転し「コロニー児童デイサービスちばな発達支援」と名称が変わりました。

日頃から社会性を培う支援を意識している中で、ワークショップの方々との交流や関わりを持つ機会も増え、子どもたちが社会性を培う上で素晴らしい環境で開所できたと思います。現在、ワークショップの利用者を招いた交流会のイベントを、子どもたちと一緒になって企画しています。今後ますます、子どもたちにとって人と人とを繋ぐ社会性を培う環境の場、そして、子どもたちの自主性を高める場として、私たちはその企画を実現に向けて子どもたちと一緒になって考えていきたいと思います。

また、コロニー児童デイサービスちばなでは、地域を中心とした活動の場を広げています。地域の公園遊びや、スーパーでの買い物支援、地域のイベント等などに参加し、子どもたちと地域の人達との繋がりも大事にしています。

その他、事業内容としては、総合支援福祉法に基づく児童デイサービス事業と市町村事業の日中一時支援事業を併用する形でサービスの提供を行っています。

今後も一人ひとりの成長を見極め、楽しく成長ができる環境、家族・地域から信頼される事業所を作っていきたいと思います。

第2回 印刷事業振興現地交流研修会

東京コロニー 大田福祉工場で開催

山形県コロニー協会 山形福祉工場 営業課 加藤一平

平成29年9月7日、8日の2日間、東京都大田福祉工場で開催された「第2回印刷事業振興現地交流研修会」に参加いたしました。

1日目は、城南島工場で工場見学、印刷事業の現況説明等、2日目は、大森工場で工場見学、運営の概要説明、意見交換等がありました。

特に感心したのは障害者優先調達推進法を戦略的に営業活動に取り入れていた点です。優先調達推進法が施工された平成25年度から計画的に取り組みを開始し、年々実績と信頼を得て今では売上の6～7割が官公庁からの優先調達推進法による受注ということに驚きました。山形では優先調達推進法がらみの受注が伸び悩んでいます。地域性を考慮しながらも、再度行政機関へのPR活動を行っていく必要性を感じました。

青森県コロニー協会での現地交流研修会に引き続き今回も参加させていただきましたが、とても実りある研修会でした。現地交流研修会は、何でも見聞きでき応答してもらえます。また、同じコロニーの仲間とふれあえ、コロニーの一員として印刷事業を行っている意義を肌で感じることができます。山形でも印刷に携わるメンバーが意義を感じて働けるよう貢献していきたいと思います。

最後に今回お忙しい中、2日間研修をしてくださいました大田福祉工場の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

ながのコロニー 長野福祉工場 印刷課 係長 山田 貴広

ゼンコロの「第2回印刷事業振興現地交流研修会」に参加させていただきました。第1回目の青森に引き続き2回目の参加となりました。

今回は東京コロニーの大田福祉工場様にお世話になり、主な課題は優先調達法の活用方法や、A型従業員の確保の取り組み等の意見交換でした。

まず初日は城南島工場の工場見学からでした。最初に当初お忙しく参加予定ではなかった中村会長からのお話の後、湯浅所長、鶴田室長、新井課長からそれぞれ大田福祉工場の現状等の説明をいただいてから工場内の見学となりました。

かなり売上がある東京なので相当立派な設備だろうと失礼ながら勝手に思っていたのですが、年代物の印刷機を修理しながら使っていたり、4色機も菊半サイズの小さいもので回していたりして、自分の法人の工場と変わらない感じで、正直良くこの設備で売上を確保されていると感心致しました。ただやはりお話をお聞きすると、カラー物の仕事が増えてきて4色機の稼働時間が増え機械的にはもう辛くなってきており、予算も取れないのでオーバーホールするのか、最近の安いネット印刷の外注に任せてしまうのか等、色々な方面を模索しているというお話もあり、自分の法人とも重なるところが多々あり、印刷関連は何処も同じ悩みを抱えていると思いました。

その後製本の設備なども見させていただき、東京都の仕事等を多く受けているだけあり、大ロットの仕事をこなせるようになっており、地方との仕事量の差を感じました。

見学の後は質疑応答や、大田福祉工場の優先調達法の活用方法のお話、また、各法人でのA型従業員の確保の取り組み等の話になりましたが、大田福祉工場の優先調達法は施行されてからパンフレットを作ったり、営業がコツコツ努力して来たものが今になってようやく認知度が上がり仕事が取れるようになって上手くいっているというお話でしたが、長野も含め他法人ではまだ認知度が低かったり、行政が積極的ではなく仕事があまりないという所が多く、なんとか大田福祉工場の例を参考に仕事を増やして

いきたいと思いました。また、A型従業員の確保は何処の法人も困っており、特に印刷のオペレーターは足りておらず、高齢化も進んで後継もおらず、話し合いでも中々良い解決策は残念ながら出ては来ませんでしたが、情報の共有が出来て良かったと思いました。

２日目は大森工場の見学となり、バスを降りた後みんなで一時迷子になるなどハプニングもありましたが、建て替え最中の工場に無事につき、未だに建て替えるのかも決まっていない長野の工場と比べて羨ましく思いながら工事中の建物を見ていました。

こちらでは制作やプリプレスの関係などが行われていましたが、工事中の仮住まいということで、かなり狭い所で仕事をされており大変そうでした。こちらでも各法人の意見交換等を行い、時間が足りない程で残念でしたが閉会となりました。

今回で2回参加させていただいていますが、やはり他の法人の様子を見させていただく事はいい勉強になりますので、機会があれば次回も参加させていただきたいと思います。

福岡コロニー就労事業部

工務課工務係長　園田　健治

平成29年９月７日～８日にかけ、第２回印刷事業振興現地交流型研修会に参加させて頂きました。東京コロニー　東京都大田福祉工場（城南島工場）での初日は印刷・製本部門を見学。建て替え工事の中で手狭な印象を受けたが印刷・製本設備は整っており、冊子物を中心に特化しているように見受けられた。福岡でも２年前に経験した新工場への大移動も大変だろうなと思いながらの見学でした。

今回の研修は、仕上係の若手を同行。所外での研修が初めてということもあり工場見学に際しては、色々勉強し取り込もうという姿勢が顕著に見受けられた。

２日目は営業・制作部門を見学。作業伝票は手書きであった。制作部門は少数精鋭で日々の業務を遂行しているように感じました。福岡においても作業分配・日々の入稿ミーティングを行うことで残業にならない取り組みを実施、成果に繋がっているところです。工程管理においては毎日職長が集まり工程進捗会議を実施、１件でも多く効率化・内製化に取り組んでいる状況です。

就労支援事業では、生活困窮者や高齢化に伴い利用者が増加しており、どのようなサポートを進めていくのか。支援を行う側の人材確保も難しい状況が続く中、若い世代をどう取り組んでいくのかが、これからの早急な課題となっています。

また、身体障害に限らず受け入れは行っていますが、各法人とも利用者との対応に課題を持ちながら今後の課題となっていました。福岡での現状を報告しましたが、他の法人でも同じように進めており、産業医や担当医との連携など利用者へのモチベーションの向上や環境作りを配慮し取り組んでいるということでした。

全体会では、各法人ともに高齢化が進んでおり、若い世代をどう取り込んでいくがが課題となっていました。印刷事業においては、大幅な利益をもたらす兆しも少ないが、新たな事業への転換も考慮しつつ、就労支援サービス向上に繋がるような取り組みを続けていかなければならないと感じました。

今回は、自分自身の知識向上に繋がる研修でした。今後もこのような研修があれば参加したいと思います。有意義な時間をありがとうございました。

新築中の大田福祉工場

第3回 交流型技能競技会（ゼンコロ版アビリンピック）

福岡コロニーで開催

ゼンコロ版アビリンピック、第3回目となる交流型技能競技会が2017年10月21日（土）、福岡コロニーの全面的な協力のもと、開催されました。競技者、要員を含めて全体で45名が参加。前日の福岡コロニー・なのみの里／なのみ工芸の見学を始め、前夜祭の交流会も含めて大いに盛り上がりました。

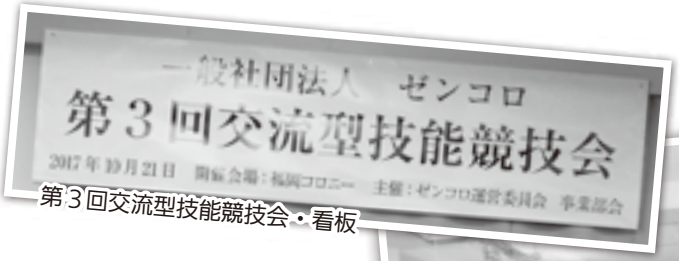
競技構成はDTP部門8名、喫茶サービス部門3名、初競技のビルクリーニング部門5名となり、お互いに真剣な表情で競い合いました。喫茶サービス部門、ビルクリーニング部門では、開催に始まり丁寧な競技説明が行なわれました。土曜日の午前中は緊張感に包まれ、大勢の見学者や審査員から見守られながらの競技となって、競技参加者は大変だったのではないかと思われました。

結果、DTP部門は最優秀賞を山形県コロニー協会の海藤航貴さんが3年連続で選ばれ、相変わらずのレベルの高さを示しました。優秀賞は、ながのコロニーの大日方貴昭さん、技能賞は熊本県コロニー協会の宮崎尚子さんがとり、表彰されました。残念ながら選にもれたDTP競技者と喫茶サービス競技者、ビルクリーニング競技者の全員に参加証と記念品が授与されました。2018年の今年は果たしてどこの法人で開催するのか、今から積極的に手を上げていただけるとうれしく思います（事務局）。

交流型技能競技会のそのあとも

福岡コロニー就労事業部
制作課制作係　北村　薫
（DTP 競技参加者）

2017年10月20～21日に福岡コロニーにて第3回交流型技能競技会（ゼンコロ版アビリンピック）が開催され、DTP競技部門に福岡コロニーの代表として参加させていただきました。当日は5法人から集まった競技者8名が、「コロニー秋の演奏会」と題された架空の演奏会のチラシを2時間30分という短い制限時間の中で作成し、日頃の職



第３回交流型技能競技会・看板

開会のあいさつ
本田常務理事

開会式

ビルクリーニング競技

ビルクリーニング
競技風景

ようこそ
福岡コロニーへ

業技能の成果を競い合いました。

ゼンコロ版アビリンピックDTP競技部門には初回から3年連続で出場していますが、同じ原稿で作られた全く違う作品が一堂に会することは、普段の業務ではなかなか経験できることではなく、今年もやはり様々な工夫を凝らした作品を見ることができて素敵な時間でした。

DTP競技では普段の業務と同じくデザイン性や正確性、読みやすさやクライアントの意図を汲み取る力など様々な能力を試され、毎回苦戦しながらその度に自分たちは常にクオリティを要求される仕事をしているのだと再認識させられます。

今年も力及ばず賞を取ることはできませんでしたが、総評で審査員長が仰った「（賞に関係なく）全員が対価を頂ける作品にできている」という言葉が鮮烈な印象として残りました。というのも、私は福岡コロニーに勤めて5年。「もっと良いものを作る」という向上心は常に持ち続けてきたつもりですが、それだけでは独りよがりの感情であって、競技会でも、普段の業務でも、どこか「相手」がいるということを遠くに置いていたような気がします。それが対価という言葉で浮き彫りにされたように感じました。

今年は福岡というホームで開催されたこともあり、このままで終わってはいけないと、後日競技で使用した原稿データを借り、自分の反省点を踏まえつつ、他競技者の良い所や特徴を掻い摘まみながら作品を制作し直してみました。

北村さんが後日作成した作品

どうでしょうか?より良い物…かは自信ありませんが、競技会当時よりはデザインの幅を広げられたのではないかと思います。

この気持ちと交流会を通して得たものを大事にし〝共に〟もっと良いものを作る」ためにも、更なる技能向上へとつなげていきたいと思います。今年も貴重な経験をありがとうございました。

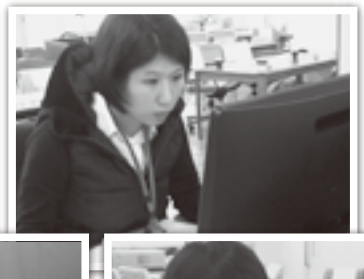
喫茶サービス競技
会場案内

ビル・クリーニング競技中

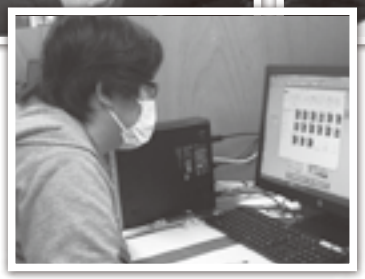
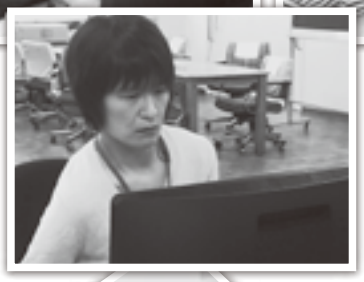
喫茶サービス競技

喫茶サービスの競技中

福岡コロニー名物のダックワーズと抹茶ガトーショコラ



DTP 競技
真剣そのもの！

DTP 競技風景

DTP、集まれ

DTP 競技のお二人

DTP 競技

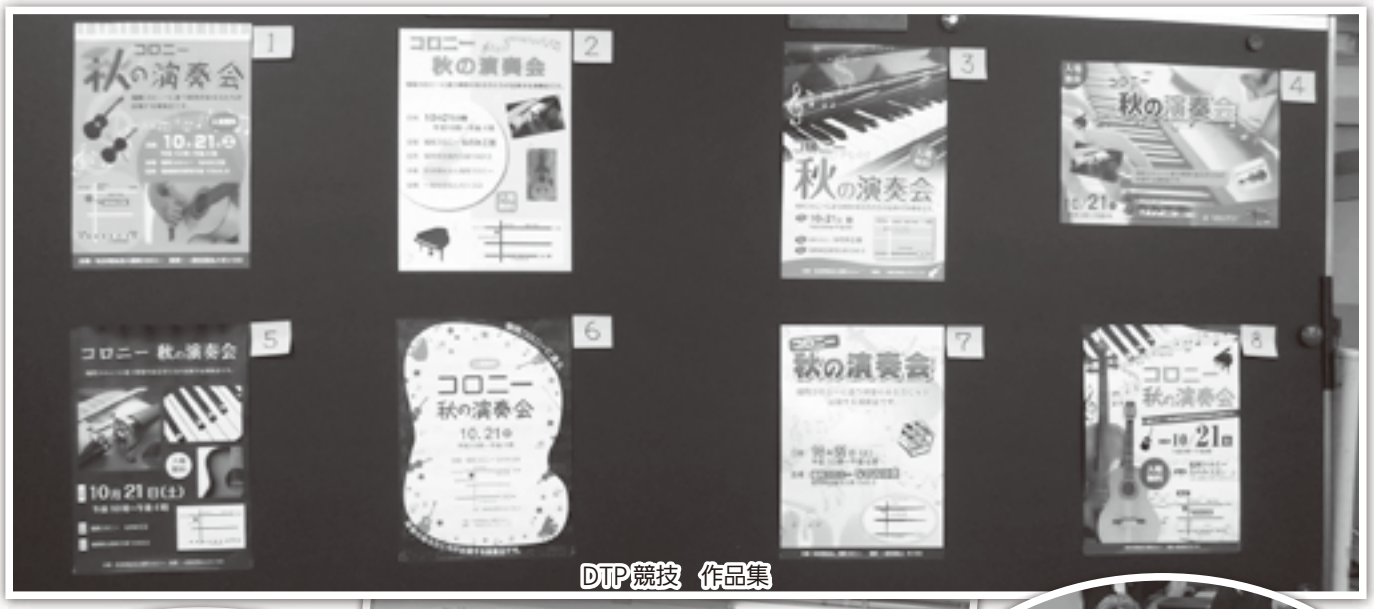
DTP 競技のお二人

競技が終ってホッと一息

盛りあがっているな

お昼のお弁当、おいしいなァー

皆さん、がんばってるよね



DTP競技　作品集

DTP競技　表彰式　技能賞
熊本県コロニー協会　宮崎直子

DTP競技結果　講評　中村会長

DTP競技　表彰式　最優秀賞
山形県コロニー協会　海藤航貴

閉会式　三船部長

DTP競技　表彰式　優秀賞
ながのコロニー　大日方貴昭

福岡福祉工場を見学

お別れの集合写真

なのみの里　さをり織り製品

なのみの里見学　人間回復の砦　碑の前で集合！！

皆さん、笑顔で

前夜祭の交流でーす

真剣に話してる？

盛り上がってるかーい

最高です！交流型技能競技会『ゼンコロ版アビリンピック in福岡』

山形県コロニー協会
天童事業部　鈴木　宏
（ゼンコロ運営委員）

今年度は福岡を会場に、正式競技のDTP（3回目）、デモ競技の喫茶（2回目）とビルクリーニング（初）の3種目を実施し、総勢16名の選手が素晴らしい技能を発揮してくれました。

振り返れば3年前、ゼンコロだからこそ当事者主体の活動機会が必要だと思い、私はこの企画をゼンコロ運営委員会の事業部会に提案しました。以降、第1回ながの、第2回東村山、そして福岡と、開催を重ねる中で、ゼンコロ事業の中で代表的な事業になってきたと感じています。

本事業の良い点は、全国から集い、交流することで、同志の存在を実感できます。また、協力して一つの事業を作り上げる連帯感、達成感を享受できます。

更には、競技者の職業技能や活動姿勢からは、『働く』機会の重要性を再認識できます。仕事は他者に喜びを提供する活動であると同時に、自己に仕合せを還元すること。何より、障害の有無によらず、人として成長する上でどれだけ重要な活動かを確認できます。

本事業は、開催地の多大な協力の下で成立しています。今回最高の舞台を用意いただいた福岡コロニーの皆様への感謝と共に、今後開催地になるであろう皆様にもご協力をお願いいたします。また、より多くの競技者の参加を期待しております。

感動をありがとう。ゼンコロ版アビリンピック最高!!

第3回　発達障害者支援研修会　東京で開催

第3回　発達障害者支援研修会に参加して

ながのコロニー　ワークサポート篠ノ井　松林富子

12月7日・8日の2日間、発達障害者支援研修会に参加させていただきました。26名の方が参加され、皆さんの所属先も就労継続支援A型及びB型、就労移行支援、就労支援センター、グループホーム、短期入所、放課後等デイサービスと様々で関心の高さが伺えました。

1日目は、「発達障害者への支援について」の講義を受けました。発達障害は無理に障害として捉えるのではなく、その人の特性として理解することが大切であるとのお話でした。具体的な事例をいくつか交えて説明していただき参考になることがたくさんありました。

2日目は、「ADHDを理解するADHDのある人が社会を生き抜くために身につけたい力」の講義を受けました。相手をよく知りその人に合った支援のやり方を一緒に見つけていく事が大切であるとのお話で、講師の方が当事者でもあった為とても現実的で関心をもってお聞きすることができました。

今回の研修会に参加して感じた事は、発達障害は知れば知るほど奥が深い障害であり、その人の特性に合った支援が必要なことから、もっともっと学ばなくてはいけないなと思いました。この研修会を計画、準備していただいたゼンコロの皆様に感謝申し上げます。

発達障害者支援研修に参加して

瑞穂町障害者就労支援センター　センター長　戸村　仁郎

12月7日（木）～8日（金）の2日間、「第3回発達障害者支援研修会」に参加させていただきました。1日目の内容は、TOSCA職員である柏木講師より「発達障害者への支援について」、発達障害の就労に関するDVD鑑賞でした。2日目の内容では、セルプあかつき西出講師より「取り組み事例」、各法人職員との「事例検討・グループワーク」、えじそんくらぶ代表の高山講師より「AD／HDを理解する」といった、とても濃密な研修内容でした。

現在、私は都事業である就労支援センターに従事しておりますが、発達障害者の方々の支援は年々増加傾向にあり、この度の研修は日々の業務にとって大変参考となりました。発達障害と一言で表すことは簡単ですが、同じ診断名でもそれぞれ違った個性があり、個々の性格が違うように、発達障害の方にもそれぞれの個性があります。一人ひとり違う個性がある事で、周囲の理解が得られづらいことも多いですが、個性をマイナスと捉えずに、どのようにしてプラスにしていけば良いのか、また双方（当事者・企業）の「困り事」を明確にすることで周囲の理解も得られやすくなるのだと感じました。

この度の研修内容をしっかりと振り返り、法人内部さらには周囲の方々と共有していき、より良い就労に繋げていきたいと思います。

社会福祉法人は今、社会から何を求められているか

社会福祉法人あかつきコロニー　常務理事　髙橋　毅

すでに承知の通り、改正社会福祉法の施行に伴い、社会福祉法人制度が大きく変わり、その対応に多くの法人が追われている状況だと思います。

背景にはイコール・フッティングの問題や内部留保への批判もあり、また経営情報の公開やガバナンスの強化等、公益法人としての責任が強く求められ、地域に向けては地域貢献事業を新たな責務として進めていくこととなっており、社会福祉法人の役割が厳しく問われている状況にあります。

「社会福祉法人は今、社会から何を求められているか」という題目は、ひしひしと重圧を感じますが、地域の中の社会資源の一つでありその責任を果たすこと、地域に対して私たちが持つ専門性やノウハウを生かした取り組みを還元していくこと、それらの取り組みを能動的に自ら働きかけていく姿勢が必要なことだと考えます。ある意味当たり前のことでしょうが、あかつきコロニーも措置の時代には地域にあまり目を向けていなかった過去があります。措置制度から支援費制度に変わり、障害者自立支援法へと移行していく過程で、地域福祉へのアプローチをこちらから積極的に福祉事務所等にかけていったことがありますが、「あかつきさんは今まで何も言ってこなかったから良かった」なんていう言葉を冗談でしょうが言われたことは覚えています。

今では地域の社会資源の重要なポジションに立っていることを自負し、そのことに誇りをもっていますが、更に地域に対してのアクションを求められていることなのでしょう。

一つには地域社会における障害者への理解や社会的障壁の除去を行っていく責任が私たちにもあると思います。日々の活動の成果や利用者自身も外に出る機会が多くなり、昔よりは理解が進んでいると思いますが、一方で自立支援協議会等の地域活動を通してみてもまだまだ理解の低さを感じますし、障害者雇用に関しても、雇用率は統計では上がってきましたが、現場レベルではまだまだ壁が厚いように感じています。

障害者への理解や社会的障壁の除去とは権利にも繋がってくると思っているので、私たちが地域で取り組む大きなテーマだと思います。

施設においてはお祭りやバザーの開催、施設の貸出し等の地域交流を進めていけば障害者施設という認識が広がっていきますが、障害者が抱える課題や生活実態まで理解してもらうとなると更に工夫が必要です。

例えば学校教育から障害者について学ぶ時間を増やせれば、障害者への理解も土壌が広がっていくと思います。

あかつきコロニーでは、各種研修会等に講師派遣をしていますが、今年は施設職員が小学校の授業に出向いて障害者（児）について講演をする機会がありました。小学生相手に話すことも難しいですが、先生からは好評を得て毎年お願いしたいとの話もいただきました。この学校は、今私が勤務している施設と運動会や文化祭等で交流をもっており、近所ということもあってか以前から交流があり、障害者（児）への理解が深く、実際その卒業生が今現在当施設にて職員として働いています。

地道な活動ですが、土壌を耕すということは時間をかけないと芽が出てきませんし、例えば地域貢献事業としてリンクできれば面白いのではないでしょうか。

少し話がずれますが、東京都では昨年度より全公立小学校において特別支援教室制度が施行され、情緒障害や発達障害のある児童が主ですが、インクルーシブ教育を目的に各小学校に特別支援教室が導入される方向で動いています。詳細は省きますが、特別支援学校や特別支援学級のように別の学校、別の学級で授業を行うのではなく、他の児童と基本同じ授業を受けるという内容です。このことは健常児側からみれば常に障害のある児童の理解が進むことが期待されると思います。

一つの例として学校教育から地域の障害者への理解促進のケースを上げましたが、社会福祉法人の役割として、いろんな形での啓発活動を行い、障害者の現状をより知ってもらうという取り組みがまだまだ必要ではないかと考えます。

新シリーズ

人物紹介

「わが心の故郷（ふるさと）」

伊波　敏男

社会福祉事業の世界から22年前に去った私に、再び、踏むことはないであろうと思っていたフィールドから、思いがけなくゼンコロ誌新年号の寄稿依頼を受けました。多くのゼンコロの皆さんとは面識がなく、名前だけでは何者？と思われるでしょうが、私は、ゼンコロの時代区分で言えば、第二世代に属します。

私が東京コロニーとゼンコロの役職を辞したのは1996（平成8）年です。辞職理由は体調不良と経営能力の限界もありましたが、ちょうど、その年、わが国のハンセン病患者を、89年間も強制隔離してきた「らい予防法」が廃止された年でもありました。私もこの法律により、14歳の時、沖縄のハンセン病療養所に隔離されましたが、勉学の望みが止みがたく、1960年に家族の手引きで、その隔離療養所を夜陰に紛れて脱走し、アメリカ軍施政権下の沖縄からパスポートを手に、鹿児島県にたどり着きました。

その後、専門学校を卒業した1969（昭和46）年の春、私はハンセン病快復者を名乗り、東京コロニーの扉を叩いたのです。当時のわが国では治癒後の元患者も隔離政策で縛り、「ハンセン病（らい病）は感染力が強く、治らない怖い病気」との誤った社会認識を定着させていました。それを恐れた元患者や家族は、罹患の過去を明らかにするのは、タブーとされていました。その時の理事長野村實氏と常務理事調一興氏は、「東京コロニーも、一般社会と同じようにハンセン病への強い偏見があります。しかし、その誤りは医学的にも立証されており、あなたが、カミングアウトして挑戦するならば、コロニー設立理念に基づき、私たちは全力を挙げて一緒に闘います」と、授産生作業者として私に門戸を開いてくれたのです。

1996年「らい予防法」は廃止され、2001（平成13）年、司法によって同法の施行は憲法違反と断罪されますが、過酷な人権被害を引き起こした法律の幕引きは、極めて密やかに行われました。このままでは、わが国の「負の歴史」が消されてしまう。この歴史の事実を書き、国民に伝えるのも、病んで泣いた私の責任ではないかと思い立ち、作家の道に踏み出しました。26年間のゼンコロ在職中、私の心に深く刻まれたのは、「人と人の向き合い方」の「命題」です。その道標（みちしるべ）は「ゼンコロ」の組織理念が示してくれました。作家活動の処女作『花に逢はん』（日本放送出版協会）から、その後、七作品が刊行されましたが、この精神軸が私の全七作のテーマです。従って、ゼンコロは私の心の原点なのです。

プロフィール

1943年	沖縄県南大東島に生まれる　現在74歳
1957年	ハンセン病発病、沖縄愛楽園に隔離収容
1960年	沖縄愛楽園を逃走、鹿児島星塚敬愛園に入園
1966年	岡山県立邑久高等学校新良田教室卒業
1969年	中央労働学院卒業、社会福祉法人東京コロニー入所
1993年	東京コロニー・ゼンコロ常務理事就任
1996年	退職 / 執筆活動
1997年	「花に逢はん」（発行 日本放送出版協会）
1998年	「夏椿、そして」（発行 日本放送出版協会） ・東京都社会福祉功労者賞 ・第18回沖縄タイムス出版文化賞
2004年	2004年より、信州沖縄塾を主宰し、塾長となる。以降、沖縄の近現代史を学ぶ特別講座を開講している。
2004年	信州沖縄塾塾長
2007年	「ゆうなの花の季と」（発行　人文書館） 「ハンセン病を生きて」（発行　岩波書店） 「改訂新版　花に逢わん」（発行　人文書館）
2010年	長野大学客員教授就任
2011年	フィリピン国立大学医学部レイテ分校卒業式出席
2012年	テレビドキュメント「花に逢はん」（琉球朝日放送制作） 2012年度朝日テレビ系列プログレス賞最優秀賞受賞
2013年	「島惑ひ」（発行　人文書館）
2013年	NPO法人「クリオン虹の基金（通称 伊波基金）」設立
2015年	「父の三線と杏子の花」（発行　人文書館）

「日本のコロニー」八ミリフィルム再生によせて

児島美都子　日本福祉大学名誉教授

2014年、自宅にて（89歳）

はじめに

私はいま93歳。

コロニー運動にかかわったのは、33歳から40歳までの間である。

当時、私は東京都中野区にあった小さな胸部外科病院の医療ソーシャルワーカーとして働いていた。戦時中は軍需工場の女子寮舎監、戦後は研究所の研究職など転々とした後、1951年（昭和26年）、医療ソーシャルワーカーという職業に出会った。26歳の時である。

医療ソーシャルワーカーが公的に我が国に導入されたのは、敗戦後、米軍総司令部の示唆によるものであった。保健所が主な職場で、病院が医療ソーシャルワーカーを置く例は珍しかった。私の勤務していた個人病院では比較的早期に医療ソーシャルワーカーがおかれた。この病院は、患者を外科手術のあいだだけ短期間入院させ、あとは在宅でという短期入院システムをとっていた。退院した在宅患者たちによって在宅患者の会が結成された。これが、後に東京コロニーの母体となる親和会で、当時、在宅患者の会としては東京で最大、700人の会員を抱えていた。

児島美都子さん
1969年RI第11回リハビリテーション世界会議（アイルランド・ダブリン）にて

コロニー運動との出会い

昭和33（1958）年10月18日、国立佐賀療養所で開催された九州地方の第3回コロニー会議に参加した私は帰途、山口県宇部市にある調一興さん夫妻を訪ねることにした。九州地方コロニー会議は熊本、福岡、佐賀、長崎、山口などのコロニーの協議体だった。「コロニー」は当時、東京ではまだ耳慣れない言葉だったが、九州地方では熊本をはじめ九州各地に建設されたコロニーが活発に事業と運動を展開していた。

1915年、イギリスのパップワースに創設された結核回復者のコロニーは、当時、日本の結核回復者たちの希望の星だった。開明的な結核医を通じてイギリスのコロニーのことを知った回復者たちは、九州各地に次々とコロニーを創設していた。第3回九州地方コロニー会議が佐賀県で開かれるという情報を得てこの会議に出席した私は、コロニー建設の動きが我が国にもあることをはじめて知った。

結核回復者のコロニーはイギリスに始まる。1915年、結核医バリア・ジョーンズと看護師のミス・ボーンがケンブリッジ近くのパップワースに結核回復者のコロニーを作ったのがそのはじまりである。この情報が開明的な結核医によって九州地方の患者や回復者に伝えられていた。

昭和24年、わが国で最初の結核回復者のコロニーが熊本に創設され。イギリスとの違いは、日本では回復者が主体となってコロニーを創設し、連帯する運動体として機能していたことだ。昭和24年、国立熊本療養所を退所した数人の回復者たちが、ともに住む家を基盤に印刷業を始めたのがはじまりだった。熊本コロニーの創始者の上村喜代人が結核患者運動（日患同盟）に取り組んでいたこともあって、九州地方の患者運動を通じてこの考え方が九州地方に広がり、福岡、長崎、佐賀、山口などに様々な形のコロニーが創設されていた。第3回九州地区コロニー会議はその協議体が主催するものだった。

ハミリフィルム

再生DVD

当時、回復者の社会復帰に悩んでいた私は、会議の帰途、コロニーを東京にも広げたいと考え、思いついたのが山口県宇部市で療養生活を送っていた調一興さんだった。そして佐賀からの帰途、調さんを訪ねることにしたのだった。幸い調さん夫妻の住むアパートはすぐに見つかり、私は九州地方のコロニーの動きを報告し、東京にもコロニーを作りたいと提案した。

東京コロニーのはじまり

帰京してすぐに取り組んだのが募金。在宅患者会、親和会に呼びかけ、46万円の募金を集め、そのお金で四畳半のアパートを借りた。調さん夫妻が上京し、印刷業を始めたのはそれから間もなくのことであった。謄写版一台、タイプライター一台を備えただけのコロニー印刷の出発であった。その後、同じ区内の回復者の家具やさん（マルト家具）の倉庫の2階を借りて職場を広げた。それがこの八ミリの最後に出てくる場面である。

八ミリ誕生のいきさつ

事業とともに取り組んだのが結核回復者の権利拡大の運動であった。当時、結核回復者はまだ身体障害者として認められていなかったため公的援助も補助金も得られず、どこのコロニーも経営は困難を極めた。

昭和36年、全国のコロニーが集合体として全国コロニー協会（いまのゼンコロ）を結成し、全国のコロニーが連帯し、患者運動とも連携して身体障害者福祉法改正運動に取り組むことになる。私は全国コロニー協会の初代事務局長になった。調さんはテープレコーダーに識者の声を収録し、厚生省内を精力的に回った。DVDに収められた文書の冒頭の説明にあるように若松公衆衛生局長の助言により取り組まれたのがこの8ミリ映画である。

このたび、ゼンコロ事務局の渡辺さんのご努力によって八ミリがDVDに再生されたことに敬意を表するとともに、コロニー運動の志と歴史が後世につたえられることを切に望みたい。

利用者の声

コロニーでの作業を通して感じた事

熊本県コロニー協会
熊本コロニー作業所
就労移行利用
福若　好郎

二年前より熊本コロニー事業所を利用しています。コロニーに通う以前は社会人も経験しましたが、その後、統合失調症で入院し、加療や薬のおかげもあって徐々に安定してきていると思います。今年7月までは就労継続支援B型を利用していました。コロニーに来た当初は、昔のトラウマとコミュニケーションが苦手で人間関係を密に取れないということもあって、毎日行けるか不安でしたが、スタッフの皆さん、利用者の皆さんに支えられ今では毎日来ています。

作業所ではふりかけのシール貼り、腕章の作成、野菜の袋詰めなどの作業をしています。ふりかけのシール貼りは、正確さが要求され、野菜の袋詰めは体力が要求される作業です。又施設外で、海苔工場でお菓子の箱詰めを隔日で行っています。作業は一日中立ち仕事で、足がパンパンになりながらも体力のもつ限り箱作りや箱詰めを頑張っています。大変ですがやりがいはあります。

作業だけでなく、図書館や美術館、一日旅行に行くこともあります。図書館や美術館は普段はあまり行かない所なので新鮮です。作業の合間のリフレッシュができるところだと思います。一日バス旅行は、ビール工場見学や道の駅の温泉に行きました。ビール工場では医者にお酒を止められているので試飲ができなかったのが残念でした。なかなか見られないものが見られて貴重な体験ができたと思います。

今年8月からは就労移行支援を利用しています。移行支援では、社会での振る舞い方やマナーのビデオを見たり、発声練習自分アピールの練習をしたりしています。大きな声を出すことや自分をアピールすることは苦手ですが、就労のためというだけでなく自分に幅を持たせる意味での訓練として頑張っています。

又、お菓子工場の工場見学や24時間テレビで、コロニーで作成した絵葉書や印刷物の物品販売のボランティアをやりました。工場見学ではお菓子工場での実際のお菓子作りの現場を見たり職員の話を聞いたりしました。お菓子工場にはコロニーから以前就職した先輩たちも働いているところです。製造業は、職種は違いますが依然従事していたこともあるし、今も施設外で製造の仕事をやっているので今後の就職活動で製造業に就職できたらと考えています。ボランティアでは自身初めての接客の仕事だったので、緊張しましたが、接客しているうちにだんだん慣れていきました。初めて物が売れたときは喜びを覚えました。就労の課題としてはもともとコミュニケーションが苦手なので就労後でも自分を作って人間関係を築くのは後々しんどくなると思うので、ありのままの自分をどのように見せていくかが大事と思います。これからも就職に向けて色々な実習や体験に参加して自分自身の視野を広げ、自分自身を磨いて就職活動につなげていきたいと思います。

私の旅行記

娘の卒業旅行便乗記

コロニーみやき　利用者父兄　浦田　喜代子

娘が特別支援学校を卒業する事となった春、鉄板の卒業旅行先の東京ディズニーランドに行きました。私にとってＴＤＬは開園して間もない頃の独身時代、マイケル・ジャクソンのキャプテンＥＯというアトラクションを目当てで行ったきりの夢の国です。欲張りな私は２泊３日の行程の初日昼にスカイツリーも入れ込みました。バチが当たって初日は雨！曇天のスカイツリー、傘の花が咲く夜のディズニーシーでした。

娘にとって飛行機での旅は２回目だったので心配はしていませんでしたが、初日は移動が多かったので疲れたようでした。反省…。

２日目は快晴のＴＤＬ、ぐっすり眠って充電完了！下調べしておいたアトラクションを効率良く回り、娘が欲しがっていたシンデレラのガラスの靴も購入、前日の反省から体力も考慮し、エレクトリカル・パレードの途中で退散しました。

今回の旅で思った事は、空港から目的地へ、ホテルへといったアクセスが便利で分かりやすい事でした。ひと昔とは違い日本でも観光立国になったのだと思いました。そして私は、逆に歳をとり前は無かった空港の自動手荷物預け機が怖くて使えませんでした（涙）。

お薦めの本

暮らしの中からつくる地域コミュニティ「地域福祉のすすめ」東北からの発信

（渡部剛士　著）

発行　全国コミュニティサポートセンター

山形県コロニー協会　理事長
須貝 壽一

著者の渡部剛士氏は長く山形県社会福祉協議会で活躍されました。事務局長の職を最後に定年退職した後、東北福祉大で教鞭をとり、社会福祉法人東北福祉会せんだん杜の杜長として活躍されました。山形県における地域福祉の第一人者として著名な方です。

山形コロニーが昭和37年に法人化されコロニー建設運動を通じて社会福祉法人となるまで、県社会福祉協議会を通じて渡部氏には大きなお世話になりました。氏の存在がなければ山形コロニーなかったと思われます。

この「地域福祉のすすめ」には戦前から戦後かけて東北にある地域福祉の課題に実践を通して取り組まれた著者の強い思いが語られています。著者の生き様を併せて本文に盛り込むことでこの著書に説得力を持たせています。著者の渡部剛士氏は昨年10月2日に93歳で逝去されました。

「地域共生社会の実現にむけて」の取組みの必要性が云われるなか、「地域福祉のすすめ」は著者の社会福祉へ関わる者への最後のメッセージであります。

佐賀春光園　末安善徳理事長、逝去

ゼンコロ第75回理事会は佐賀春光園「希望の家」で2017年11月9日に開かれ、会議の冒頭に佐賀春光園理事長の末安善徳様からごあいさつをいただきました。その末安様が21日後の11月30日、逝去されたとの訃報を聞き、大変驚きました。お話を頂いた時は体調があまり良くないご様子でしたが、それにしても、という思いが残ります。

ここで、末安理事長が冒頭に話された以下のごあいさつを紹介し、改めて哀悼の意を表したいと思います。

正面向かって左が末安理事長

私も、非常にいい所に住んでいるなと思っている。佐賀のほうが福岡よりも北にある。北に玄界灘があり、南に有明海、宝の海と呼ばれて佐賀は風光明媚なところと自負している。

私は昨年の6月1日に理事長を拝命して、それまでは理事をさせてもらっていた。「県立希望の家」がもともとあった。希望の家は昭和40年代の後半に建てられ、当時は県内の福祉施設でも大きなほうで、2番目か3番目の大きさを誇っていた。民間で運営したら年間でどのくらいの損益になるか調べたことがあった。毎年6千万円の赤字と出た。

法が改正され、社会福祉法人にはいろいろと課題が突きつけられているが、非常に難しい岐路に立たされているなと。恐らく皆さまも今後どうあるべきか悩んでいるのではないかと思われる。私たちが一番悩んでいるのはそれです。口で言うのは易しいが、なかなか現実は袋小路に入ったみたいな感じを受けている。今日、お集まりいただいた皆さまからお知恵をお借りして、他からも情報をいただき、私たちも出来るだけ情報を提供して、我々ゼンコロの将来に向かって、今、私たちがやるべきこと、一番大事なことは何かを考えるのが一番の課題ではないだろうかと思っている。有意義な会議になるよう祈念して、皆さまとともに弱者のために役に立つ事業を、希望を持って進めていきたい。

（ゼンコロ第75回理事会議事録から抜粋　事務局）

自慢の作品　シリーズ

鶴の舞橋

青森県コロニー協会・青森コロニーリハビリ　生活支援員（夜勤）　保刈 智之

鶴の舞橋（青森県鶴田町の津軽富士見湖に架かる日本一長い三連太鼓橋）と、その上に広がる星の写真を撮りたいと思い、夜勤勤務を終えた私は、その足で撮影場所に向かいました。新月で真っ暗な深夜２時半頃、池の畔に着きました。三脚を置き明け方まで２時間かけて、星の動きを撮る事にし、カメラを自動撮影にして、車の中で待つ事にしました。その後、１時間半程して、カメラの様子を見に行ったところ、カメラもレンズも露でグッショリ濡れていました。自動撮影も、20分で止まっていたのです。すでに夜が明ける時間帯だったので、星の撮り直しは不可能でした。「一晩が無駄になったな」と、落胆していたその時です。橋の向こう側がピンク色に染まり始めてきました。そこに、鶴の舞橋と共に、八甲田連峰の山々のシルエットが浮かび上がってきたのです。私は、夢中でシャッターを切っていました。

自然は、時おり思いがけない素晴らしい風景を見せてくれます。その感動が、再び写真を撮りに行きたいと思わせてくれるのです。

綱　領

現代社会には、様々な障害のある私たちの仲間が生活している。

私たちは戦後の混乱のなかから、自らが生き、働く場をつくる事業と運動を共同してすすめてきたが、障害を理由に生きる諸権利が制限され、その状況は今日もなお続いている。

私たちが願う進歩した社会とは、すべての人々の自由と尊厳が守られ、平和で人間らしい生活を送ることができる社会であり、このことは人類共通の願いである。

私たちはそうした人間尊重の理念にたち、完全参加と平等と障害者の働く権利の具体的な保障をめざし、わが国の関係制度や社会・経済・文化的諸条件の改善を図り、すべての人々が幸せに生きることができる社会の実現に向けて連帯し、積極的に行動する。

私たちの誓い

開拓者の心　私たちは、試されたことのない道を自分たちの手できりひらく開拓者のこころをもち続けます。

働く喜び　私たちは、さまざまな困難を乗りこえ、働く場やそれを支える暮らす場を創設し、働くことをつうじて積極的に社会に参加できることをめざします。

可能性の追求　私たちは、ひとりひとりの多様な可能性を信じて、新しい能力を発揮する努力を続けます。

連帯と協力　私たちは、お互いに協力し、励まし合い、かわることのない連帯で幸せを築くことに努めます。

豊かな社会　私たちは、心を合わせて、すべての人が障害の有無に関わらず、人としての幸せを感じられる、平和で豊かな社会の実現をめざします。

2014（平成 26）年 11 月 21 日
一般社団法人ゼンコロ　第 67 回総会　改訂承認

・青森県コロニー協会 青森市017(728)5621・山形県コロニー協会 山形市023(641)7335・ながのコロニー 長野市026(293)8766・東京コロニー 中野区03(3952)6166・あかつきコロニー 武蔵村山市042(560)7840・山口県コロニー協会 防府市0835(32)0069・福岡コロニー 新宮町092(963)2781・佐賀春光園 みやき町0942(94)2144・熊本県コロニー協会 熊本市096(353)1291・沖縄コロニー 浦添市098(877)3344　ゼンコロホームページ http://www.zencolo.or.jp/

一九九二年四月十七日第三種郵便物認可（毎月三回七の日発行）

ビジネスを強力にバックアップする ムサシ のソリューション

■ 名刺カードプリントシステム

MP-300 Duo

■ 印刷業総合業務管理システム

M BOOSTER Webブラウザを介した簡便性で マネージメントを強固に支援する業務管理システム

■ 表面光沢加工機

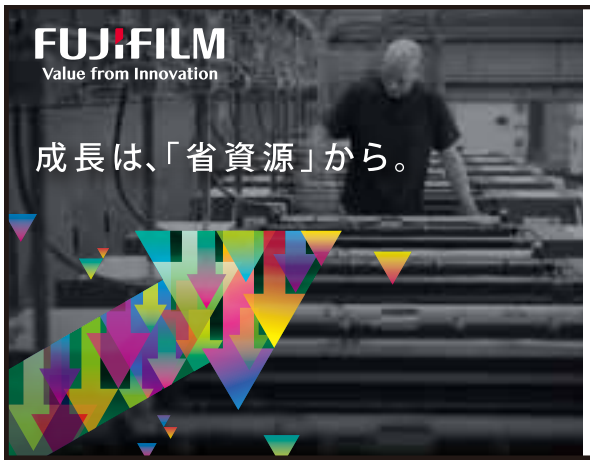
DC-2

■ web受発注システム

Print Order 「SUPER DIGITORIAL」との連携で組版機能強化 柔軟で強力なWeb to Printを実現したB to Bシステム

株式会社ムサシ 〒104-0061 東京都中央区銀座8-20-36 第二営業本部 http://www.musashinet.co.jp/print634（印刷事業特設サイト）

東京第二支店 03-3546-7733 札幌支店 011-708-3541 仙台支店 022-796-2101 北関東支店 048-640-5795 東関東支店 043-305-4901
神静支店 045-620-0863 名古屋支店 052-228-7865 大阪支店 06-6745-1634 中四国支店 082-232-9261 福岡支店 092-282-6301



もっと強く、もっと付加価値の高い印刷ビジネスを実現するために
富士フイルムは提案します——成長は、「省資源」から。
材料・工数・水・エネルギー・排出、これまでの「コスト」を減らし利益に還元。
製版・印刷工程を軸にした、独自のソリューション「FUJIFILM SUPERIA」が
あなたの会社をどこよりも強いものへ変えていきます。

**FFGSは、戦略的『省資源』で、
トータルコストダウンを支援いたします。**

「減らす」がつくる、クオリティ FUJIFILM SUPERIA

富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社 ホームページ http://ffgs.fujifilm.co.jp
本社 〒106-0031 東京都港区西麻布二丁目26番地30号 富士フイルム西麻布ビル 03(6419)0300

福祉施設の企画・総合計画・改造計画・設計監理

ー確かな経験と豊富な実績ー

昭和44年の創業以来、北海道から沖縄まで全国各地に600件の公立・民間の福祉・医療施設建設を手がけた、数多くの経験と実績があります。施設の移転計画、増改築計画等、どんなことでもお気軽にご相談ください。計画・申請から設計／監理にいたるまで一貫したお手伝いをさせていただきます。

株式会社 新環境設計
代表取締役 荻原正之
〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-15 ADMAXビル
TEL. 03-5800-0321 FAX. 03-5800-0505
http://www.shinkankyo.co.jp

発行人 障害者団体定期刊行物協会
編集人 一般社団法人 ゼンコロ
東京都世田谷区砧6―26―21 頒価百円（購読料は、会員法人が納める会費に含まれている）
東京都中野区江原町2―6―7